

●漁況情報

- 鎌倉漁協ハマグリ部会では、11月以降、日中の大潮でもあまり引かないため鋤簾操業が芳しくなかったため、11月9日以降、夜間に鋤簾の試験操業を実施しました。同部会員3~5名で実施した所、夜間の干潮を跨いだ2時間で10~20kg/人の好漁となり、鋤簾で漁が見込めなかった11~12月も収益が見込めるようになりました。

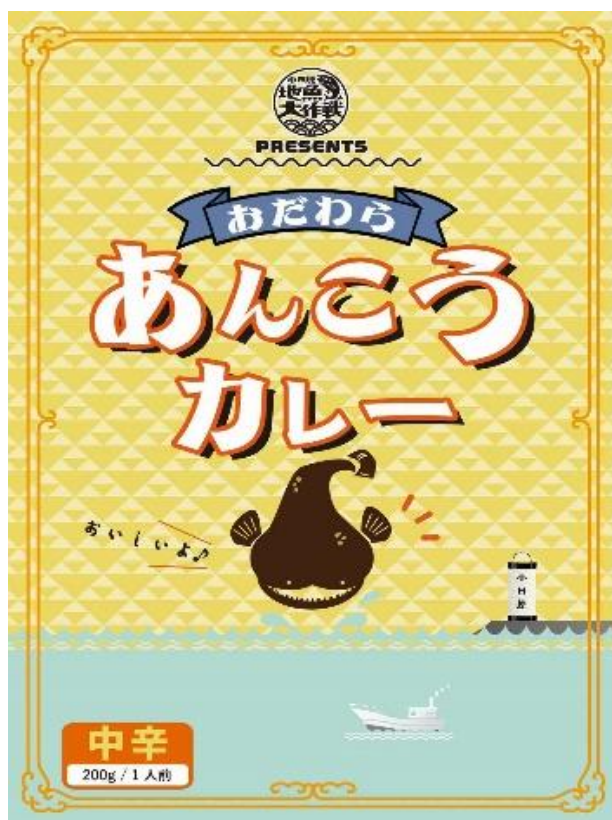
●浜の話題

- 10月30日~11月1日、小坪漁協の座間漁業士を始めとする合同会社こつぼのメンバーは、小豆島の池田漁協に、地魚等を用いた製品化販売の取組みとシングルシード種苗を用いた牡蠣カゴ養殖を視察に行きました。11月22日には、お世話になった池田漁協組合長と参事が小坪漁協を視察に訪れ、海ぶどうやキャベツウニ、合同会社こつぼのアカモク製品等の販売状況を視察されました。

JF 池田漁協ホームページ <https://jf-ikedada.com/index.html>

- 11月9日、県庁会議室において令和4年度漁業士認定委員会が開催され、4名が青年漁業士に1名が指導漁業士に認定されることとなりました。
- 11月9~10日、長井町漁協 福会所属漁業者4名と同漁協職員は、6月17日に長井町漁協にトラフグ浮延縄漁を視察に来られた、福島県相馬双葉漁協の效漁丸さんのトラフグ底延縄漁を視察し、2~3kg物30~40尾/隻の漁があったそうです。当センター江の島丸の相模湾での底延縄調査でもトラフグの漁獲があったことから、福会のメンバーは今後底延縄漁にも取組んで行くそうです。
- 11月10日、小田原市漁協刺網部会の研修会が開催されました。今年度は「おだわらあんこうカレーの商品開発」と「キアンコウの生態」について、小田原市水産海浜課と相模湾試験場の職員から話題提供があり、あんこうの単価向上や獲り方の工夫について、情報交換をしました。なお、話題提供にあった「おだわらあんこうカレー」はクラウドファンディングの返礼品として提供されるそうです。

https://camp-fire.jp/projects/view/623946?list=projects_popular_page81



おだわらあんこうカレーのパッケージ

- 11月11日、大磯二宮漁協は、水中ドローンで大磯港の漁船係留設備を点検しました。操縦を習熟し、今後は漁場の海底の様子を調査するそうです。



水中ドローン

- 11月16日、小田原藻場再生活動組織は江之浦～石橋海域でウニ駆除を実施しました。漁業者やダイバーなどが参加し、2千個を超えるウニが駆除されました。母藻礁の設置と並行して進めることで藻場の回復を期待したいところです。



小田原藻場再生活動組織メンバー



ムラサキウニ



潰されたムラサキウニ

- 11月17日、三和漁協上宮田支所では地先海域でアマモの播種（種まき）を行いました。5月18日にみうら漁協南下浦支所金田湾販売所の協力のもと、金田漁港周辺で花枝採集したアマモから種を選別、保管していた約1万粒の種を、かつてアマモ場のあった海域や防波堤の内側の流れが緩い場所などを選んで種をまきました。アマモが順調に生育し、アマモ場が復活してメバルやアオリイカなどが戻ってくることを期待したいと思います。

- 11月22日、柴、金沢、安浦、走水、田浦、金田、葉山、小坪、鎌倉地区で、牡蠣独自の筏や、ワカメ養殖筏でのシングルシード種苗を用いたカキ籠養殖試験を始めました。金沢と小坪地区では、牡蠣の生態に合わせて、潮の満ち引きに合わせて乾湿する施設での養殖試験も実施しており、既存のワカメ筏での生産性向上と、新たな乾湿養殖での牡蠣の品質向上を図ります。



中間育成で6 cmまで育ったシングルシード牡蠣種苗



金沢の海苔ヒビ施設を活用した乾湿式養殖施設

- 11月22日、長井町漁協 トラフグ延縄漁業者グループ 福会会長の長助丸さんに、かながわブランド「相模のとらふぐ」延縄漁の取材がありました。23日にはトラフグ種苗生産をしている当センター栽培推進部と底延縄調査に携わる江の島丸にも取材がありました。当日の様子は、12月24日（土）9:30～テレビ朝日「食彩の王国」で全国ネット放映予定なので、ぜひご覧ください。
 テレビ朝日「食彩の王国」ホームページ <https://www.tv-asahi.co.jp/syokusai/>
 JF長井町漁協「相模のとらふぐ」 <http://jf-nagaimachi.info/free/torafugu-sagami>



でっぴりと太った旬の天然・釣物「相模のとらふぐ」

- 11月24日、平塚市が「カーボンニュートラル」をテーマにしたヤフー株式会社の企業版ふるさと納税の寄付先に2年連続で選定されました。これを受け、平塚市漁協は、漁港を活用した藻場造成によるCO₂固定の実証実験に取り組んでいきます。

平塚市の掲載ページ https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/press/page02_e00001_01379.html

- 11月28日、横須賀市東部漁協 走水大津支所では、水産技術センターで生産したサザエの稚貝（殻高2cm 13,500個）を同支所の地先に放流しました。また、放流に際しては、放流直後の生残性を向上させるために、漁業者自らが潜水して放流を行いました。



サザエ稚貝の放流の様子

- 12月1日、横須賀市東部漁協に北海道産コンブの種糸が到着しました。例年、同漁協の御厚意により県内各地の要望をとりまとめ、必要数を北海道から購入しているものです。神奈川育ちのコンブは柔らかく調理しやすい「早煮昆布」として人気があります。今年はこれまで水温が高く、ワカメ養殖に苦戦している地区が多いですが、水温が下がってコンブが順調に生育することを期待したいと思います。
- 12月3日、江の島片瀬漁協は、水産多面的機能発揮対策事業の江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（EFP）による活動で、海底清掃及びカジメの生育状況を確認しました。カジメの藻場は残念ながら再び消失してしまいましたが、母藻を収めた網袋「スポアバッグ」の中でカジメが生育を続けており、藻場の回復を期待しています。



海底清掃の様子



スポアバッグ（写真：EFP 提供）

- 12月8日、小田原藻場再生活動組織は6月に設置したカジメ母藻礁のモニタリングを行いました。母藻礁内のカジメの状態が良好であることを確認し、清掃作業を行いました。定期的なモニタリングと清掃活動で母藻礁の機能維持を図っています。



カジメ母藻礁モニタリングの様子

- 12月11日、江の島片瀬漁協は、江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（水産多面的機能発揮対策事業の活動組織）が主催する「海藻シンポジウム」において、養殖わかめの種挿し体験、漁場見学を催しました。同漁協の藻場再生の取組みについて、親子連れの参加者に理解を深めてもらいました。



種挿し体験の様子



漁場見学の様子

- 12月29・30日9時頃から売切れまで、三和漁協上宮田支所青年部は、同漁港（ココス三浦海岸店の海側）において、年末漁港市を開催いたします。当日は定置網や刺網の朝どれ地魚、スズキ、アジ、メバル、カサゴやサザエ、旬のナマコ等を取り揃えて直売するので、ぜひご来場ください。

- 当センター企画指導部の海況担当研究員によると、12月に入ってもA型の黒潮からの暖水波及が継続しており、東京湾口部でも平年より高めで推移しております。17℃以上で水温が高いと藻食性魚類のアイゴ等による養殖わかめの食害被害が懸念されるので、水温の高い地区では囲い網の設置等、食害対策にも留意下さい。

● お知らせ

● 新春漁業者交流大会について

県漁連、神奈川県漁業士会、県の共催による新春漁業者交流大会を次のとおり開催する予定です。コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となりますが、皆様のご参加をお待ちしております。

*参加申込不要、当日受付でございます。

**1F 入り口に検温器（サーマルカメラ）が設置されておりますので、平熱確認後お入り下さい。

日時：令和4年1月13日（金）13～15時

場所：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩5分）

内容：漁業士認定証書授与、漁業者活動発表「真鶴町岩沖におけるイワガキ養殖について」（岩漁業協同組合 皆木青年漁業士）、漁業士会活動紹介、話題提供「生残率を高める種苗放流方法について」（公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 今井専務理事）

● 漁業士通常総会について

神奈川県漁業士会は、漁業者交流大会の後、15時30分から同会場において「漁業士通常総会」を開催します。漁業士会員の皆さまのご参加をお待ちしております。（参加できない方は、県漁連指導部から発送されている委任状を最寄りの役員か普及員にお渡し下さい。FAX送信の場合は、こちらにお願いいたします。）委任状FAX送信先 045-774-1576 県漁連指導部 漁業士会事務局あて